

1 中学校公民的分野「よりよい社会を目指して」の単元開発

2 —SDGs 未来都市に選定された「富山市コンパクトシティ政策」を例に—

3

4 坂田元文（富山大学人間発達科学部附属中学校・富山大学大学院現職派遣）

5

6 【キーワード】SDGs, コンパクトシティ政策, システム思考, シビル・ミニマム

7

1. 単元開発の理論編

(1) SDGs とコンパクトシティ政策

① SDGs とは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001
5年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目
標）の後継として、2015年9月の国連サミッ
トで採択された「持続可能な開発のための
2030 アジェンダ」に記載された2016年から
2030年までの国際目標である。持続可能な世
10界を実現するための17のゴール・169のター
ゲットから構成され、地球上の誰一人として
取り残さない“leave no one behind”ことを誓
ったもので、SDGsは発展途上国のみならず、
15先進国自身が取り組むユニバーサルなも
のであり、日本としても積極的に取り組んで
いくことを政府としても表明している。

② コンパクトシティ政策とは

コンパクトシティという用語はアメリカの
G. B. ダンツィク、T. L. サアティ著書『コ
20ンパクト・シティ』（1974年）が初出である。
モータリゼーションの進行により深刻になっ
た環境問題や中心市街地の空洞化問題への対
応として、1990年代初頭から欧米諸国の都市
政策においてコンパクトシティの概念が注目
25されるようになったとされる。このコンパ
クトシティ施策の目的は、欧米においてはモ
ータリゼーションの進行によりスプロール化し、
中心部が空洞化した都市を政策的に再集積さ
せることによって中心市街地の居住者を増や
30し、商業活動を活性化し、公共サービスを効
率化することによって財政支出を縮減しよう
というものである。そして、高齢化社会を見
据えた自家用車に頼る必要のない、歩いて暮
らせる街で、鉄道やバスなどの公共交通を移
35動軸として、拠点となる駅やバス停から400
m程度の徒歩圏に住宅、商店、公共施設など
の都市機能を集約する街の姿が将来的に目指

されるものとされる。

③ 富山市のコンパクトシティ政策

40 富山市は、人口増加とモータリゼーション
の進展により市街地が外延化し、中心市街地
の人口減少と商業機能の低下、公共サービス
コストの増大という問題が生じた。これに対
して、市では鉄道やバスなどの公共交通を軸
45として生活拠点をつなぐことによって歩いて
暮らせるコンパクトなまちづくりを目指した。
その中で2006年には全国初の本格的LR T
の「富山ライトレール」が開業し、2009年
には市内電車環状線「セントラム」が開業した。
50 富山市では2万人あまりの人口がある436ha
の範囲の中心市街地と鉄道で結ばれた各駅周
辺に集約する生活拠点を含めてコンパクトシ
ティと捉え「団子と串の都市構造」（「団子」
が駅周辺の生活拠点、「串」が公共交通網）と
55表現している。

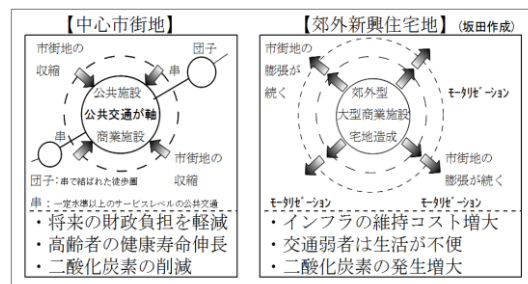


図1 中心市街地(コンパクトシティ)と郊外新興住宅地の概念(筆者作成)

60 政府は地方創生と中長期的な持続可能なま
ちづくりを推進すべく、積極的にSDGsに
取り組んでいる国内29の自治体を2018年6
月15日「SDGs 未来都市」として選定した。

併せて、富山市のコンパクトシティ政策は
中でも先導的な取組で、多様なステークホル
ダーとの連携を通じて地域における自律的好
循環が見込めるものとして、「自治体SDGs
モデル事業」10事業の1つにも選定した。

(2)コンパクトシティ政策の理論的な根拠

コンパクトシティ政策の理論的な根拠として、
70「シビル・ミニマム」という理念と「システム思考」が挙げられる。「シビル・ミニマム」とは、都市における市民の最低限の生活環境基準のことをさし、第二次世界大戦後のイギリスの社会保障に関する「ビバリッジ報告」
75のなかのナショナル・ミニマムの語に示唆を受けて自治体専門家の間で用いられるようになった和製英語であるとされる。ナショナル・ミニマムは、地域のいかにかわりなく、全国民を対象にして最低限の生活が保障される水準をさすのに対し、シビル・ミニマムは市民が生活を営むうえにおいて、地域社会が当然に備えていなければならない最低限の基準（市民が安全・健康・快適・能率的な生活を営む上で必要不可欠な最低条件）を
85さす。日本の高度成長政策は1960年代の後半にそのひずみを多様な形で噴出した。公害が普遍的な社会問題化し、開発や都市の過密化、モータリゼーションの激化、都市の地価上昇などを招き、都市問題を激化させた。さらに、
90いわゆる経済的弱者に対する生活保障の問題なども不可避となる中、「シビル・ミニマム」はこうした状況への対応の理念として出てきた。具体的には、都市型社会における生活の社会化に伴って必要とされる社会保障、社会
95資本、社会保険などの整備を旨とし、実際にこの理念によって、自動車排ガス規制などの公害規制、諸医療費の軽減、公園・下水道・公営住宅などの整備が行われた。さらに、これらの基準を設定するのは、市民ないしその
100自治機構としての自治体であるとされている。一方の「システム思考」とは、すべてのシステムがいかに働き合っているかを理解する能力のことをさす。例えば、システムのある部分におけるアクション、変化、不具合が、
105他のシステムにどのような影響を及ぼすかを理解する能力をいう。あるいは、機能している異なった要素が相互に作用していることについて概念的に理由づける能力のことをさす。さらに、システム思考には、価値判断や意思
110決定を行うこと、システムを評価することが含まれるとされており、社会科の市民的資質育成に資することができると思われる。

2. 単元開発の実践編

(1)よりよい社会を目指して

115 学習指導要領解説によれば「よりよい社会を目指して」の単元は社会科のまとめとして位置づけられており、「持続可能な社会を形成することに向けて課題を設定、探究し、自分の考えを説明、論述できるようにする」とある。また、解決すべき課題の設定については、
120「身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させるなどの工夫を行い」とあり、本実践においては、持続可能な社会の実現とそれに関わるSDGsを取り上げ、身近な富山市に
125おいて推進されている「コンパクトシティ政策」を通して、富山市が解決すべき課題とその解決方法について考えさせた。

(2)授業の実際

①学習単元の構成

130 SDGsの取組としてはじめに「なぜ富山市はコンパクトなまちづくりを目指しているのか」との問いを設け、富山市が抱える問題やコンパクトシティ政策の効果について扱った。そして、持続可能な社会に向けた取組として「富山市が抱える問題を解決するために、コンパクトシティ政策は今後も続けていくことはよいのか」という
135単元構成をとることとした。また、後日、富山市長を招聘してディスカッションを行った。

140 ②討論の授業における生徒の意見の例

A案：よい。（うまくいくと思う）

- ・高齢者が多く住む地域に公共交通網が整備されているので、高齢化に対応できる。
- ・中心部の賑わいが生まれ、流入人口や児童数が増加していくことが見込まれる。

B案：よくない。（うまくいかないと思う）

- ・中心部だけに財政が投入されることは納税者にとって公正ではない。
- ・子育て世代は郊外の広い家に住む人が多い。中心部に住もうという人は増えない。

③富山市長「出前トーク」事業

講演を聞き、あらためて「人口減少を緩やかなものにする」「シビックプライドの高いまちづくり」についての理解が進んだ。また、
145市長との質疑応答では、話合いの過程で生まれた疑問についても解決することができた。